

# 学園だより



Vol.208

December

2023

弘前大学

特集

施設紹介

ボランティアセンター 02 / キャリアセンター 06



弘前大学総合文化祭 10 / 研究室紹介 12 / 海外だより 14 / 新任教員紹介 16 / けいじばんコーナー 19 / 編集後記 20

# 弘前大学地域創生本部 ボランティアセンター



「ボランティア」に興味はあるけれど、何をしたらいいの？という方も少なくないのではないのでしょうか。ボランティアをしてみたいけれど、どういう活動をしているのか、どうやって始めたらいいのか、不安や迷いがある方はもちろん、学生生活で何かしてみたいけれど…という方へ、弘前大学ボランティアセンターについてご紹介します。

弘前大学ボランティアセンターは、東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域へのボランティア活動を円滑に展開するために設立された『人文学部ボランティアセンター』を発展的に改組し、ボランティア活動の推進及び支援を図るため、平成24年10月に全学組織として設置されました。その後、令和2年4月に組織再編を行い、弘前大学地域創生本部に機能を統合し『弘前大学地域創生本部ボランティアセンター』となり、現在に至ります。

ボランティアセンターは、自治体や各種NPOなど地域社会と弘前大学との間に立ち、ボランティア派遣を円滑に行うための仲介機能を果たすと共に、ボランティアを通じて地域内の諸課題の解決に資する取組を行い、地域社会に貢献することを目的として様々な活動を実施しています。

## ▶ 活動内容

本センターでは子ども達への学習支援から災害復興支援、サイバー防犯ボランティアなど、地域課題の解決に資する多様な活動を行っている他、様々な機関・団体からのボランティア派遣要請に対応し、学生の皆さんにボランティア活動の機会を提供しています。令和5年9月時点で、515名の学生及び教職員の皆さんがボランティア登録をしています。



## ▶ 災害支援に関する活動

### ● 突発的災害対応

平成28年から被災地における災害ボランティア活動の実施・募金活動・現地調査・支援活動を開始しています。

令和4年2月に勃発したウクライナ侵攻の際は、人道支援としての募金活動の実施、学生へウクライナの現状を正確な情報で伝えるためのパネル作成及び展示などの取組を行いました。令和4年8月に起きた大雨災害の際は、災害支援義援金募金活動の他、弘前市と協力し弘前市内りんご園での清掃活動（漂着したごみの撤去、落下した果実の回収等）を行いました。

また、災害対応は青森県外でも行っています。令和5年7月に起きた大雨災害の際は、秋田県五城目町へ赴き、民家の泥出しや清掃などの活動を行いました。



## ▶ 野田村支援交流活動

東日本大震災後、岩手県野田村における被災住民との茶話会、文化交流、子供の学習支援活動などを実施しています。

例年7月頃には、弘前周辺地域の方と共に野田村新町地区へ向かい、夏祭りの運営補助や盆踊りへの参加、8月、12月頃には野田村の小学生を対象とした宿泊学習支援やクリスマス会を開催しています。

令和4年12月には、ダンスインストラクターの方によるダンスのレッスンや、スノードームづくりを楽しみました。また、令和5年8月にはプレーパークを行い、小学生たちと珍しいスポーツや野田村産品を使った食事を楽しみました。

## ▶ 地域の課題に対する活動

### ● 学習支援事業

勉強のサポートからおしゃべりまで、子どもたちの居場所づくりを行うことを目的としたボランティア活動を実施しています。

#### 学習支援教室あっぷる〜む

弘前市社会福祉協議会との共催により、経済的不安を抱える世帯の中学生等に対して毎週1回行われる、大学生による学習支援です。

#### 子ども食堂学習支援

県内の子ども食堂へ行き、子どもに勉強を教えたり、一緒に遊んだりします。

#### Zoomおんらin

Zoomを使用したオンライン学習支援を行います。



### ● 除雪ボランティア活動

弘前市と連携し、通学路の除雪、町内会の除雪支援を実施しています。

### ● 青森県警察サイバー防犯ボランティア

青森県警察から本学学生が委嘱を受け、サイバー空間のパトロールや、青森県内小中高校へサイバー防犯に係る講演などの活動を実施しています。

令和4年度は、青森県で開催されたイベントにて、青森県警察のブースで広報活動の補助を行いました。



### ● 地域からのボランティア派遣・周知依頼への対応

地域の様々な団体からのボランティア派遣・周知依頼に対し、学生ボランティアの募集やボランティア登録学生への周知広報を実施しています。

#### これまでのボランティア派遣

- ・ねぷた制作・運営補助ボランティア
- ・よさこい津軽運営補助ボランティア
- ・自治体主催の地産品PRイベントでの運営補助ボランティアetc…

## ▶ ボランティアに関する広報活動

### ●活動報告会

毎年3月に、1年の活動について振り返る「活動報告会」を開催しています。昨年度の活動報告会では、ボランティアセンターの登録学生が1年間の活動内容や活動を通して感じたこと等を報告した他、令和4年度の大雨災害支援に関する取組についての発表やパネルディスカッションを行いました。

### ●市民ボランティア講座

地域の方々や学生・教職員を対象に、ボランティアへの積極的な参画や理解を促すことを目的として、様々なテーマでのボランティアに係る講演会を実施しています。

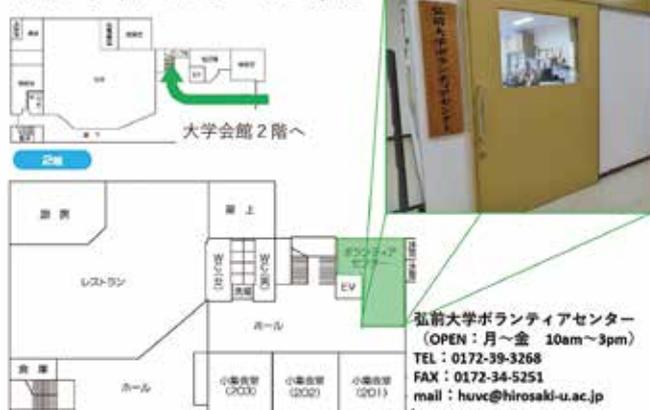
一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとと共催で実施した「避難所運営訓練」では、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営訓練を通して、学生や地域の方々が避難所づくりや要配慮者の支援の仕方、コロナ禍における避難者の受入を体験することで「誰一人取り残さない」地域防災を学びました。講座では、実際に避難所づくりに使われるテントや段ボールベッドを使用した、避難所運営のためのスペースづくりも体験しました。



## ボランティア活動に興味のある学生や教職員の皆様へ

弘前大学地域創生本部ボランティアセンターでは、教職員や学生の皆さんのボランティア登録を受け付けております。登録した方には、センターからボランティア募集情報をお届けしていますので、ボランティア活動を始めてみようかな……と思っている方は、ぜひ登録をお待ちしています！

### ボランティアセンターのご案内



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター HP

<https://huvc.net/>



Let's Try!!  
ボランティア参加学生  
の声をお届け▶



就職活動の拠点

弘前大学

キャリアセンター



▶ 卒業後に向けて頼れる支援！

人生設計の中で、大学卒業後、大学院修了後にどのような職業に就くか、どんな仕事をしていくかは、これからの人生において大きな問題です。できれば、自分の性格や興味関心とマッチし、弘前大学での学びが活かせるところ、そして給料をはじめ福利厚生の条件の良い職場で働きたいものです。そのためには、いつ頃から何をどうすればいいのでしょうか。自分だけの情報収集には限りがあります。

一人ひとりの志望が叶うよう、「就活のイロハから実践まで」の支援をしているのが、キャリアセンターです。

## ▶ 相談者数は年間延べ 2,000 人超え！

キャリアセンターでは全学年、全学部、全大学院の学生、そして未就職既卒者を対象として就職活動に関する相談を行っています。各学生はそれぞれ抱えている事情が違います。就職活動は何から始めればいいのか？就職までの流れはどうなっているの？インターンシップができる企業は？その申し込み方法は？エントリーシートや履歴書・自己PR書の書き方は？そもそもどんな企業があるの？自分に合っている企業や職種を見つけるにはどうすればいいのか？面接指導をしてほしい、等等。

キャリアセンターでは国家資格を持つ3人のキャリアアドバイザーが、学生一人ひとりと1対1で対応しています。対面が基本ですがWEBでの相談も行っています。何でも気軽に相談にお出でください。それが就活の第一歩になります。



## ▶ 各種ガイダンスは年間 70 回以上！延べ 1,500 人が参加！

弘前大学では、「生き方教育」として位置付けているキャリア教育を、1年生の「キャリア形成の基礎」と3年生の「キャリア形成の実践」を必修科目として行っています。キャリアセンターではそこで学んだ内容をベースとして、就活に向けた実践的な取り組みについてのガイダンスを、年間70回以上にわたって行っています。

就活入門講座、就活なんでも相談会、留学生相談会、自己分析、優良企業選択、インターンシップセミナー、身だしなみ・メイク講座、OB・OG対談、採用試験・面接対策、10回以上開催の公務員セミナーなどの講座のほか、業界研究・企業研究を主眼とした、県内企業をめぐるバスツアー（企業見学会）、個別及び合同企業説明会なども充実させており、各学生のニーズに応じた実践的で多種多様な「ためになる」ガイダンスばかりです。対象は全ての学生、参加料は全て無料です。年間延べ約1,500人が参加しています。



2023 就職ガイダンス「公務員の仕事のホンネ」



2023 企業見学バスツアー（青森ケーブルテレビ(株)様）



2023 企業見学バスツアー（東京鐵鋼(株)様）



北海道庁&札幌市役所業務説明会 in 札幌サテライト

## ▶ 弘大生を求めて年間約 800 社が来校！企業情報満載！

弘前大学は日本経済新聞社と日経 HR が実施した大学イメージ調査「採用を増やしたい大学」で 2019 年度 1 位、2021 年度第 2 位、2022 年度は「就職支援に熱心に取り組んでいる大学」で第 2 位に選出されています。弘大生を求める企業は多く、年間約 800 社がキャリアセンターを訪れて企業案内や募集要項を持参したり、学内での個別企業説明を行ったりしています。また、青森・岩手・秋田の各県庁や北海道庁と連携し、各道県内の企業が合同で企業研究セミナーを行っており、キャリアセンターが主催する弘大生を求人对象とした全国の企業による合同企業説明会には 500 社を超える応募があります。

キャリアセンターにはこのようにして、企業の事業内容・求人票・インターンシップなどの情報が集まってきます。また、内定を得た先輩たちの就職活動報告書、公務員試験の過去問をはじめとする就職関連図書の貸し出し、職業とのマッチングに役立つ職業適性診断等のサービスを提供しています。キャリアセンターは「就活情報館」としての機能を果たしています。図書館と同じように活用ください。



2023.6.14 北海道企業研究セミナー

## ▶ 就職率 98.6%の高水準！（令和 4 年度）

企業人気の高い弘前大学学部卒業者の就職率は令和 4 年度が 98.6%と歴代 4 位。人文社会科学部 98.0%、教育学部 100.0%、医学部保健学科 100.0%、理工学部 97.2%、農学生命科学部 97.9%と学部により多少の増減はありますが、コロナ禍の時期も含めて高水準を維持しています。

就職の業種別順位は、医療・福祉（21.1%）、公務員（医療・教員以外 19.0%）、教員（12.2%）、情報通信業（10.5%）、製造業（7.8%）、卸・小売業（7.0%）の順となっています。また、都道府県別の就職先順位は、青森県（26.1%）、北海道（20.1%）、東京都（18.5%）、宮城県（8.7%）、関東地方（7.8%）、岩手県（5.5%）、秋田県（3.6%）の順になっています。業種別、就職先の順位は毎年同じ傾向にあります。



## ▶ 学生支援の拡大進行中！

就職活動の多様化に伴い、オンライン就活を支援するために、従来からの Wi-Fi 環境の整ったキャリアセンターセミナー室利用を促進するとともに、令和 4 年度には WEB ブース（生協 SHAREA 横）を設置して貸し出しを始めています。また、北海道から毎年 300 ～ 400 名程が本学に入学し、200 名程が北海道内に就職していることから、令和 5 年には、北海道での就職を希望する学生の就活支援や就職先となる自治体・企業との交流を強化する目的で、新たに「札幌サテライト」を設置しました。就職活動などの際、大いに活用していただきたいと思います。近年は、大学院生・留学生・障がいのある学生への就活支援にも力を入れており相談数も増えています。

キャリアセンターでは学生、保護者、教職員、同窓生のご意見を伺いながら、今後も学生の就活支援を充実させていきたいと考えています。キャリアセンター HP をご覧になり、多くの就職関連情報を得ていただければと思います。



Web ブース



弘前大学札幌サテライト



キャリアセンター PR 漫画

## ▶ お問い合わせ



TEL: 0172-39-3129 FAX: 0172-39-3131  
email: scc@hirosaki-u.ac.jp

キャリアセンターホームページ

<https://career.hirosaki-u.ac.jp/>



学年・学部問わず、  
どなたでも利用できます。  
お気軽にお問い合わせください！



# 第22回 弘前大学総合文化祭



## 第22回 弘前大学総合文化祭を終えて

弘前大学学祭本部実行委員会  
実行委員長 家上 凌弥

第22回弘前大学総合文化祭は10月21日(土)～22日(日)の2日間、4年ぶりに全面的に開催されました。総合文化祭としては22回目、弘大祭としては73回目の開催となりました。毎年10月の恒例行事ですが今年はほぼ制限のない開催となり、文化祭に活気が戻ったように感じました。金曜日に行われた前日祭は5つのバンド系サークルに出演していただき、学内限定ではあったものの多くの学生に足を運んでいただき、ほかとはまた違った盛り上がりを見せていました。

今年度の弘大祭のテーマは『共炎(きょうえん)』です。コロ

ナが日常生活になじみ、一時的に減少した人の活動が活発になり始めました。以前と変わらない日常生活が戻りつつある今、第22回総合文化祭が開催されます。コロナ前と変わらない盛り上がりと共に作っていききたいという願いが込められています。総合文化祭というステージで全員が【共炎】しています。燃え盛る炎のような盛り上がり、多くの人と共に作り上げていききたいという願いがこのテーマには込められています。

文化祭1日目の土曜日には『Opening Festival』が行われ、福田学長の開催宣言で総合文化祭が始まりました。その後のステージで行われた『熱唱カラオケ大会2023～予選～』ではどの出場者もレベルが高く、その歌声に多くの人が耳を傾けていたのが印象的でした。初日の『Performance Show 2023』では楽器演奏やダンスなど、どの団体も魅力的な発



表でした。どちらのステージイベントも活気あふれるものとなっていたように感じました。さらにその後の『よさこい弘大』では、弘前大学よさこいサークルHIRODAI焰舞陣のみならず県内のよさこいチームの方々にも出場していただき、メインストリートは多くの人で賑わっていました。

2日目の日曜日は『Performance Show 2023』で幕を開けました。お笑いや歌、ダンス、武術など初日とはまた違った発表に来場者は足を止め、その発表に見入っていたのが印象的でした。『熱唱カラオケ大会2023～本選～』では予選のレベルを上回るレベルの高さに驚かされました。そして『お笑いスペシャルライブ』では真空ジェシカのお二人に来ていただき、会場は多くの人々の笑いに包まれました。文化祭最後の企画『Final Festival』で福田学長に閉祭宣言をしていただき、2023年度の総合文化祭は幕を閉じました。その後大雨の中

行われた『花火』では、雨空に花火がとてもよく映えていたのが印象的でした。

2日間に渡る部活・サークル出店では作品の展示や武術体験などその部活・サークルの特色ある出展や個性的な店名でおいしいものを売っている屋外出店、各学部の特色ある企画で文化祭を大いに盛り上げていただきました。

2日間で約4800人の方の来場があり、無事に総合文化祭を終えることができました。ご来場いただいたみなさま、各所でご協力いただいた弘前大学関係者のみなさま、出店していただいた団体のみなさま、ステージ発表していただいたみなさま、その他関係する多くの方々に深くお礼申し上げます。今年度の弘前大学総合文化祭が皆様の思い出に残るものとなっていれば幸いです。来年もぜひ足をお運びいただければと思います。

## CLOSE-UP 研究室紹介



# 「起こらない」を起こしたい

弘前大学教育学部  
衛生学研究室  
助教 相馬 優樹

## はじめに

弘前大学教育学部衛生学研究室の教員を務めさせていただいている相馬優樹と申します。令和3年度に衛生学・公衆衛生学担当の教員として赴任しました。現在はデータサイエンスに関わる授業も担当しております。元々スポーツ科学分野で高齢者の体力について研究してきており、取得した学位も博士（体育科学）であるため、専門を「公衆衛生」と名乗ることを非常に恐縮感じております。研究手法としては、公衆衛生分野の研究ではほぼ必須といえる統計的仮設検定から、地理情報システムやテキストマイニングなど様々な手法を駆使して研究しています。要するに自分が興味を持った手法を用いて健康にアプローチしているの

ですが、共同研究している高校時代からの友人が「“Methodologist”だね」と言ってくれたのが大変しっくりきて気に入っています。地方国立大学の大学院生もいない小さな研究室ではありますが、世界水準の研究成果を挙げられるよう日々取り組んでおります。

## 研究室の活動内容 (希望・予定も含む)

研究室の所属学生に身に着けて欲しい力として、子どもに発生する望ましくない状態（以下、変調）の原因を発見して予防方法を考案するための論理的思考力や、学校現場において収集されるデータの活用能力があります。赴任して間もないので活動内容は固まっていないのですが、ゼミでは3年次前期より著名な疫学者の先生が書かれ

た専門書の輪読を行い、変調とその原因との関連を明らかにするための手法である「疫学」の基本的な考え方を学びます。変調の予防を考える上で、原因との因果関係をどう評価するかが重要なのですが、因果関係の判断基準や、関連があると思われる原因を探索するためのデータ収集・分析法、研究デザインについてこの時期になんとなく触れておきます。また、毎年5月になると弘前市で行われている成人を対象とした調査に参加し、調査の雰囲気を感じる機会もあります。3年後期には、自分が関心のあるテーマについての論文の抄読や研究に使用するデータの収集を行います。4年前期は教育実習や教員採用試験で活動は行わないのですが、4年後期に入ると卒業論文の執筆を始めます。データサイエンスや人工知能が注目を集めている昨今ではあ

りますが、ゼミでの活動をとおして学校教員としてそれらを活用できる能力を身に付けて欲しいと願っております。

### 実施中の研究①

## 学校データを活用した 児童生徒の変調の予防

日本において、ほとんどの子どもは義務教育期間に多くの時間を学校で過ごします。学校生活の中で子どもには多くの変化が起きるのですが、残念ながら望ましい変化だけが起きるわけではありません。不登校や体調不良による欠席はわかりやすい例ですが、学校に登校できている子どもにも、学習成績の不振、むし歯、視力低下、低体力といった多くの変調が発生します。そこで、子どもに変調が生じる要因を探索し、その要因を避けられるよう教育や介入をおこない、未然に発生を防ぐことを目標に研究しております。

実は学校には、子どもに変調が発生する可能性を予測し、予防のための介入に活用できるデータが数多く存在します。皆様も、学校での健康診断、体育科の授業での体力測定を行った記憶があるかと思います。その他、通知票に記載されている学習成績の状況や欠席日数といった数値情報を目にしてほしいし、負傷や体調不良による保健室入室の状況も実は記録されていたりします。こういった多くのデータが学校で保管されているのですが、残念ながら学校生活で発生する変調の予防にはうまく活用できておりません。原因を明らかにするまでの方法が非常に複雑で、専門的な知識、多くの時間・労力を要するため、多忙を極める学校の教員では対応できないというのが理由としてあるでしょう。加えて、教員養成課程における変調の予防に関する授業時間や受講者も圧倒的に少ないです。私自身まさに変調の予防に関する授業を担当しておりますが、1学年160人中30人前後しか授業を受けておらず、そのほとんどが保健体育教諭免許状と養護教諭免許状の取得を目指す学生です。つまり、学校教員の中でも変調の予防について学んでいる人は少数であるため、予防に意識を

向けられる教員も少ないのではないかと考えております。変調が予防できれば変調自体が発生しないので、教員の負担を大きく減らすことができると思うのですが、なかなか予防に意識を向けてくれません。現在附属学校と協力して変調の予防のための研究を進めているので、成果を地道に発表していき、教育現場でも予防の考え方を定着させることができると考えております。

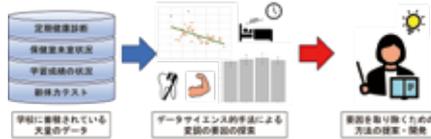


図1：変調予防を目指した学校データの活用の流れ

### 実施中の研究②

## シラバスを用いた大学の 教育評価

大学は、授業内容を「シラバス」という形で授業を履修する学生が分かるように示しています。この「シラバス」は、実は学生だけでなく広く一般に公開されていることはご存じでしょうか。文部科学省により、大学は教育内容を明確にし、評価できるように公開することになっております。特に、資格が取得できる大学は、資格保有者の質を保証するために「ガイドライン」に従ったカリキュラムを組むことが望ましいとされており、ガイドラインの内容と、その大学のシラバスの内容を照らし合わせることで、大学の教育の質を評価することができるといえます。私はこれまで、管理栄養士・栄養士養成課程のカリキュラムの中でも歯科保健領域の教育内容に着目し、テキストマイニングという分析手法を用いて地域差や取得資格間で格差が生じていることを明らかにしてきました。日本一管理栄養士・栄養士養成大学のシラバスに目をとおしたと自負しております。全国の大学のシラバスを眺めて気付いたこととして、米粒よりも小さい字で書いてあって見せる気が無い、文字の検索機能が機能していないなど、大学ではまだまだシラバスの整備が進んでおらず、大学で実施されている専門家教育の評価を行うには

課題が多そうです。

現在私は主に養護教諭養成課程の学生の授業を担当しておりますが、養護教諭養成についてもガイドラインが存在しているので、ワードクラウド（図2）などテキストマイニングの手法で各大学のカリキュラムがどの程度ガイドラインに沿っているかを評価することができます。逆に、ガイドラインを分析することによって、そもそもガイドラインが教員に求められる資質を養うに足るかどうかを評価することが可能なのではないかと考えております。



図2：ワードクラウドの例（旧Twitterにおける「ダイエット」に関連する単語）

## 最後に

研究をとおして変調が生じる子どもをゼロにできるとは思っておりませんが、学校生活で問題を抱える子どもが学校から少しでも減ることにより、教員の業務負担が軽減され、教員という仕事のイメージの改善にもつながるのではないかと考えております。医学的な治療や心理的カウンセリングは上手くいくと目に見えて子どもの状態が改善するためやりがいを感じやすい分野である一方で、予防の取り組みは上手くいくと何が起きるかという、目に見えてはつきりわかることは起きません。そもそも予防の役割は問題が起きないようにすることなので仕方ないことではあるのですが、それゆえ地味でやりがいも感じにくい分野でもあります。でもよく考えてみてください、変調は改善させるよりも、そもそも生じさせない方が望ましいと思いませんか？ご同意くださり、子どもを陰ながら支える研究に興味のある方は、ぜひ教育学部衛生学研究室を訪ねてください。



## 海外だより

海外留学で見たこと感じたこと

You have bloomed!!

教育学部 学校教育教員養成課程 4年 池田 果朋



これは、今年の夏、滞在先のアメリカ人の家主の方から言われた言葉です。"bloomed"という言葉からも分かるように、これは誰かが成長し、発展し、ポジティブな変化を経験したというアイデアを伝えるためによく使われる比喩的な表現です。私はアメリカでの留学生生活を体験している中で、自身の成長を強く感じています。



私は現在アメリカのメイン州に位置するメイン州立大学に通っています。Google Mapでメイン州を調べてもらえば分かるように、アメリカの端っこ、カナダのすぐ近くです。そのため、アメリカ人でもメイン州はカナダだと思っている人がいたり、メイン州の存在すら知らない人もいました。この州は別名 "Vacationland" と呼ばれており、自然豊かで過ごしやすい州です。出発前の危機管理オリエンテーションで、外出する際には、すられてもいいダミーの財布と本物の財布の2つを携帯するようという指示があったので警戒していたのですが、メインの人たちはとても優しく安心して生活することができています。

私が留学を志したのは、中学生の一時期をベトナムで過ごしたのがきっかけです。今まで日本を出たことがなかった私にとって、ベトナムでの生活は別世界でした。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でない環境で暮らしていく中で、自身の可能性が広がり、日本に帰国してからももう一度海外に行きたいと思うようになりました。また、アメリカのメイン大学を選

んだ理由としては、弘前大学で英語を第2言語として子どもたちにどう教えるのかを学んでいく中で、実際の英語圏ではどのような表現が使われているのか、使える英語を子どもたちに教えたいと思ったためです。



私は2023年の3月にメインに到着しました。初めの頃は9か月の留学生生活は長期間のように感じていましたが、早くも半年が過ぎ、時の流れを痛感しています。大学では、3月～8月までは語学学校の授業を受講していました



が、9月～12月は学部の正規授業を受講しています。到着したばかりの頃は横断歩道の渡り方が分からず毎回走ってわたっていたり、コンビニでクレジットカードが使えず泥棒だと疑われたり、クラス内のディスカッションでは“I cannot understand what you are saying.”とクラスメートに言われたりもしましたが、今となってはいい思い出です。

語学学校では一般的なクラス内の授業だけではなく、現地の小学校を訪れ自分の国の文化を紹介したり、自転車を組み立てるワークショップに参加したり、大学内の博物館を訪れスカベンジャーハントをするなど、英語力の向上だけではなく、アメリカでの生活にどう適応し友達を作っていくかについても学ぶことが出来ました。

大学の正規授業では、Academic Writingというライティングのクラス、家族について学ぶFamily Interactionのクラスに加え、教育学部のChild

Developmentという実際に大学内にある幼稚園の子どもたちと交流することができる授業と、教師としてどう子どもたちをサポートしていくかについて学ぶことのできるSupport Academic Behaviorの4つの授業を受講しています。



留学をしている中で一番感謝していることは、新しい人々との出会いです。夏季休業中は滞在していた寮が閉まってしまうため、メイン大学の留学本部の人に現地の方で自身の家をアメリカ外から来た学生に貸している方を紹介していただきました。そのため、私は

現在家主のアメリカ人女性と、ウズベキスタン人、ウガンダ人、アメリカ人の計5人で1つの家に暮らしています。皆さんとても優しく、お互いに自身の国の料理を振舞ったり、映画を一緒に見たり、夜中にスーパーマーケットにケーキを買いに行ったりと、本当の家族のようなときを過ごしています。



私の海外だよりを読んでいる人の中には、留学をしようか迷っている人、一歩を踏み出すきっかけの無い人、費用面・語学面で不安のある人も多いと思います。留学する前、私は何十人もの留学体験記を読み漁りましたが、どの体験記を読んでも留学をしたことを後悔している人はいませんでした。この海外だよりがあなたの留学を後押しするきっかけとなれば幸いです。



STUDY ABROAD

PICK UP

個性豊かな  
10名の教員が  
新たに着任  
いたしました



新任教員紹介

TEACHER

01



人文社会科学部

情報行動講座

中島 崇法

10月に着任しました中島崇法と申します。生成文法理論に基づく英語統語論を専門に研究しています。生成文法理論は、言語の個別の特徴を記述するだけでなく、「なぜ」そのような特徴が言語に備わっているかを客観的に説明することを目標とする分野です。この背景を生かし、皆さんの学びにおいても「なぜ」を常に問い、論理的・客観的に答えを出す方法論を身につけるお手伝いをしたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

TEACHER

02

教育学部

国語教育講座

市地 英

10月に教育学部国語教育講座へ着任しました、市地英と申します。専門は、日本語史です。特に、近世の変体仮名について、研究を進めてきました。弘前は、城下に寺子屋があり、読み書きを教えていたことが知られています。このような地で働けることは、近世当時に教えられた平仮名のあり方を研究したい、と考えていた私にとって、ありがたいことです。弘前大学の研究・教育に、尽力します。よろしくお願ひいたします。

TEACHER

03



教育学部

数学教育講座

澤原 雅知

2023年10月より着任しました澤原と申します。今まで埼玉に在住していたため、青森での生活は初めてです。私の専門は代数幾何学です。ざっくりと申すと、多項式の零点が定める図形を研究する学問です。特に、デル・ペッツ曲面と呼ばれる、平面に近い性質をもつ代数曲面の構造に興味があります。まだまだ未熟者ですが、学生さんと共に学びながら、本学の教育や研究に貢献できるよう尽力して参ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

TEACHER

04



教育学部

附属次世代ウェルビーイング研究センター

荒川 英央

10月から、教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センターに参りました。教育社会学と民法(“市民の”社会の法)のあいだでフラフラしています。いま、弘前大学でさまざまに学ぶ皆さんを含む次世代の社会がどのようなものなのかについて、調査研究をしていきます。皆さんのお力を借りながらです。どうぞよろしくお願ひします。ちょうど10年前、アップルロードで食べた甘酸っぱいリンゴに惹かれて弘前に来ていたりもします。

TEACHER

05



医学研究科

内分泌代謝内科学講座

藤田 征弘

10月より教授として赴任しました。滋賀医科大学、旭川医科大学と単科大学での生活が長く、総合大学は留学していたブリティッシュコロンビア大学以来でワクワクしています。糖尿病学特に消化管ホルモンを専門に研究してきました。夢は多くの糖尿病・内分泌専門医を育てるだけでなく、地域医療に貢献し、県民の健康寿命を増進させることです。是非多くの若い皆さんに参加して頂き、共に活躍できるチームを形成していきたいと思ひます。

TEACHER

06



保健学研究科

総合リハビリテーション科学領域

朴 白順

今年の9月に医学部心理支援科学科に着任いたしました朴 白順（パクベクスン）、在日3世です。ヒトの行動と脳の間接関係を解明する神経心理学を専門としています。これまでに、交通外傷、脳血管障害、神経変性疾患、および脳炎など脳の器質性損傷後に生じる記憶障害を対象に研究を行ってきました。この度、弘前には人生で初めて足を踏み入れました。食を知ることや人を知ること、自身の人生をより豊かにしていきたいと思っています。

TEACHER

07



理工学研究科

機械科学科

佐藤 俊之

2023年10月1日付けで理工学研究科に着任しました佐藤俊之と申します。これまでは秋田県由利本荘市にある秋田県立大学にて、機械工学やメカトロニクスの教育と研究に携わってきました。専門は制御工学と呼ばれる分野で、主にフィードバック制御系の設計に関する研究をおこなっています。教育や研究を通じて少しでも自動制御の面白さを伝えられたらと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

TEACHER

08



農学生命科学部

生物学科

ムラノ 千恵

10月より、生物学科・生態環境コースに着任いたしました。専門は農地生態学と野生動物管理学です。特に人間活動と自然環境の接点である「農地」における生物多様性の向上を目指し、農地を利用する野生動物の生態や、よりよい管理の在り方について研究しています。生まれ故郷でもある弘前から、学生さん達とともに地域社会の課題に取り組めることをとてもうれしく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

TEACHER

09



地域戦略研究所

食料科学研究部門

西宮 攻

6月に地域戦略研究所食料科学研究部門に着任しました西宮攻（にしみやおさむ）と申します。これまで水生動物の繁殖生理に関する研究を行ってきました。また最近では小型マグロ類「スマ」の稚魚用人工飼料開発や、飼育水の水質悪化を防除する性能を持つ飼料の開発を行っています。

今後は、青森県はじめ北日本の地域振興に向けた北方性水産種の増養殖研究とその実装化のために研究を行いたく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

TEACHER

10



リチウム資源総合研究機構

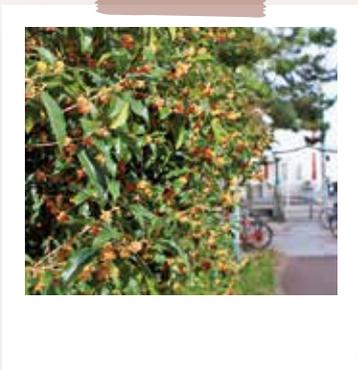
新村 潔人

2023年7月1日付けでリチウム資源総合研究機構の助教として着任した新村潔人です。現在、化石燃料からほかのエネルギーへの転換期を迎えようとしています。その際に、既存のエネルギーもしくは新たなエネルギーを貯蓄するための候補として、リチウムイオンバッテリーがあります。そのためリチウムの需要が増大しています。そこで、革新的なりチウム資源回収の研究開発を通して社会に貢献したいと思っています。よろしくお願ひいたします。



夏から秋の風景

*Photograph*





## 弘前大学

# 「教育に関する表彰式」を 実施



8月7日（月）、「教育に関して優れた業績を上げた教員」及び「成績優秀学生」の表彰式を行いました。

表彰式には、各学部等から推薦された教員8名中7名、学生27名中20名が出席し、理事、各学部長、研究科長及び附属病院長が列席する中、福田学長から表彰状と副賞が授与されました。

福田学長から、この表彰は、単に受賞者の功績を称えるだけでなく、励みの意味合いもあるので、受賞者の皆さんはこれから更なる高みを目指し、知識と知恵を磨き続けてほしいとの祝辞がありました。続いて、人文社会科学部松井歩助教と医学部医学科5年藤元琢也さんから挨拶がありました。

引き続き、成績優秀学生のうち最高学年次の学部学生と教職員による懇談会を行い、本学の教育をより良いものにするため、意見交換を行いました。

大学からの支援についての意見や要望など、率直な意見が出され、今後の改善に活かされることが期待されます。





## 編集後記

秋が深まりゆくなか、今号の編集がなされています。みなさまにご覧いただいている今、もう雪が降っているでしょうか。

今年是全国的に異常な暑さで、弘前も例外ではありませんでした。どんな秋が来るのだろうと思っていたら、後期が始まると急に涼しくなり、今は少し肌寒くもあります。ちゃんと秋がやってきたなあと感じながら日々を過ごしています。こんなに暑かったんだから、せめて冬は雪が少なくあつてほしい。そう思う反面、少なければ少ないで物足りなく感じるのかもしれない。

私が弘前大学に着任し、弘前市民になつてから、もう少して三年が経ちます。弘前に来て感じるのは、四季それぞれがくつきりしていて、一つ一つの季節の彩りが豊かであることです。春の咲き乱れる桜、夏の夜に光

る星空とねぶた、秋の涼しい風に揺れる色づいた木の葉、冬のすべてを覆う真っ白な雪。どれも季節の輪郭がはつきりとしていて印象深いものです。弘前大学の一年もまた、この季節が移ろいとともに過ぎていきます。季節の変化を味わいながら、日々の出来事の一つ一つを心に留めながら、大切に毎日を過ごしていきたいと思えます。

この『学園だより』では弘前大学のさまざまな人たちの活動が紹介されています。身近な人が掲載されていることもあれば、全く接点のない人もいることでしょう。それぞれの季節の中で行われるさまざまな営みを、少しでもお伝えできれば幸いです。

(教育学部 帆刈)



CO・OP 学生総合共済は弘大生の9割以上が加入している「たすけあい」の制度です。  
身のまわりでケガ通院や病気入院した学生がいたら。  
「共済金の請求した？」とお声がけください。  
その一言が「たすけあい」に繋がります。



大学生協共済キャラクター「タヌロー」

## 2022年度(2022.4~2023.3)弘大生の病気・事故(ケガ)等による学生総合共済の給付件数・給付金額は

**829件 69,921,000円**でした。

\*CO・OP 学生総合共済 G1200 コースの実績です。

\*上記実績には新型コロナウイルス感染症のお支払い件数と共済金額が含まれています。2022年9月26日以降、新型コロナウイルス感染症は治療のための入院のみ保障対象となっています。

【2022年4月~2023年3月の給付件数と給付金額】(円)

項目	学生総合共済	
	給付件数	給付金額
病気入院・手術	102	8,205,000
事故入院・手術	583	53,190,000
事故通院・固定具	103	1,726,000
後遺障害	0	0
こころの早期対応	30	300,000
本人死亡	2	2,000,000
扶養者死亡	9	4,500,000
合計	829	69,921,000

学生委員会が学生総合共済の毎月の特徴的な給付内容を掲載し作成している「たすけあいボード」



弘前大学生協では、学生総合共済が学生にとってより身近なものになるように、加入・給付・報告・予防に関する活動を「共済活動の4本柱」と位置付け、学生と生協職員が一緒に取り組んでいます。

弘大生の傾向を分析し、自転車事故や飲酒事故の防止活動、健康チェック、食生活相談など、弘大生の健康や安全のための活動を行っています。

病院にかかったら窓口へご相談を！

### 【学生総合共済 給付事例】

運動中のケガが一番多いですが、日常生活の中でのケガや病気は誰にでも起こり得ます。

#### ●病気 《自然気胸》

早朝のアルバイト中に突然胸が痛くなった。  
入院14日 手術1回 共済金190,000円

#### ●病気 《うつ病》

試験、研修期間中辛くなって受診。  
入院9日 共済金90,000円

#### ●事故 《アルバイト中の事故》

アルバイト中に転倒し、顎を裂傷した。  
通院5日 共済金10,000円



※詳しい保障内容はCO・OP 学生総合共済のパフレットをご覧ください。

### CO・OP 学生総合共済 相談窓口

文京地区：たび shop 本町地区：医学部店 FERIO

大学が窓口になっている【学生教育研究災害障害保険(学研災)】の給付状況(2022.4~2023.3)

学研災の「加入」確認も生協店舗【たび shop】でできます！

学研災では正課中のケガ 1件 126,000円の給付実績がありました。



弘前大学



# 学園だより

vol.208 / 2023年12月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：李 永俊（教育委員会）

委員：近藤 史（人文社会科学部）

吉澤 忠司（医学研究科）

上原子晶久（理工学研究科）

高松 達典（学生課）

帆苺 基生（教育学部）

高橋 康幸（保健学研究科）

吉仲 怜（農学生命科学部）

白石 興介（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索



学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: [jm3113@hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3113@hirosaki-u.ac.jp)